令和7年度

事　業　報　告　書

自　令和 7 年 4 月 1 日
至　令和 8 年 3 月 31日

社会福祉法人　神通福祉会

令和7年度事業報告

1．事業概況

【新型コロナウィルス等の感染症の影響】

令和 7 年度は、新型コロナウィルスとインフルエンザが同時に感染拡大する時期もありましたが、職員ならびにご家族様において感染予防の取り組みをしっかり行うことができ、感染症クラスターの発生がありませんでした。

【事業を取り巻く環境要因の影響】

1．世界情勢の混迷

ウクライナ侵攻やイスラエル紛争が長引く中、アメリカによるイラン攻撃が発生し、地域紛争が納まることなく、日本経済にも多大な影響を与えています。資源価格の高騰や物価上昇に加え、原油供給の不安や原油由来製品の安定供給にも影響を与えています。また、人件費上昇も継続的に進んでいます。これらにより当法人においてもコスト面において大きな負担がかかってきています。

2．介護人材不足

日本において少子高齢化により介護を必要とする人が年々増えていく一方、生産労働人口は年々減少していき、介護の担い手の大幅な不足が予想されています。当法人でも必要な職員の充足が十分に追いついていないのが現状です。継続的な職員の募集、採用を進めると同時に、業務効率化を図り、生産性の向上等の取り組みにより職員の定着を目指していかなければなりません。

3．設備投資

令和 7 年度に予定していたナースコールの更新は、補助金の不採択により見送ることとし、令和 8 年度の事業としました。令和 8 年度には、下新建屋の空調更新も実施することとしています。また、下新の建屋は開設後 21 年が経過し、水漏れ事故が多発し修繕費用が予算以上に嵩むこととなりました。

【令和 7 年度の事業収支状況】

法人全体のサービス活動収益は 640,036 千円で前期より 2,355 千円増、前年比 100.4%となりました。サービス活動費用は 669,755 千円で前期より 2,971 千円増、前年比 100.4%となりました。収入は前年と比較してほぼ横ばいとなり計画通りに増やすことができず、費用についても計画通りの削減が進まなかったため、サービス活動増減差額は▲29,720 千円、経常増減差額は▲26,039 千円となりました。

【令和 7 年度の主な取り組み】

・介護において防げる・防げた事故を削減

令和 6 年度事故件数 215 件 内 防げる・防げた事故 67 件（31.2%）

⇒ 令和 7 年度事故件数 201 件 内 防げる・防げた事故 66 件（32.8%）

事故総件数は減少しましたが、防げる・防げた事故の割合の改善が進まなかった。

令和 8 年度は「薬の事故を減らす（誤薬ゼロ）」をテーマに取り組みます。

・感染症対策の徹底

職員による感染予防の取り組みを徹底し、特に「感染症を持ち込まない」ことに注力しました。更にご家族様の面会時や施設のイベント開催時にも感染対策を徹底することにより、令和 7 年度は感染症クラスターを発生させませんでした。

・歯科協力医療機関の設置

歯科医師による定期的な各サービスへの巡回により、利用者様の口腔ケアサービスを行うと共に職員に口腔ケアに関する知識及び技術のレベルアップに取り組みました。

・処遇改善加算及び補助金の獲得

職員の賃金改善のため、加算及び補助金の最上位ランクの加算率を得るための重要要件である「生産性向上推進体制加算の取得」、「ケアプランデータ連携システムの運用」に職員と共に取り組みを行いました。結果として業務改善が進み、職員の負担軽減にもつながっていきます。

・電気料金低減

コスト削減のため電気供給の見直しを行い、永楽拠点では既存電力会社より割引率のアップを引き出し、下新拠点では、新電力会社への切り替えを行いました。イラン情勢による影響が懸念されますが、現時点で、電気の安定供給に問題なく、料金削減効果も確認しています。

・設備投資

ボイラー2 台のうちの 1 台、温冷配膳車 1 台、デイサービスのイス浴、厨房の空調について設備更新を行いました。

最も更新を行いたかったナースコールの更新については、補助金が不採択となったため令和 8 年度の事業に先送りしました。

更に令和 8 年度には大型の設備投資である下新建屋の空調更新を、省エネ補助金を活用して施工します。

以上